

情報倫理 -これを知らずしてネットすべからず-

単位数	ナンバリングコード	
2	DIF220	
	教員名	柳田 拓人
	専門	情報科学, サイエンスコミュニケーション
	出身校等	北海道大学 大学院情報科学研究科 (コンピュータサイエンス専攻)
	現職	北海道情報大学 総合情報学部 システム情報学科 准教授
授業形態		
前期印刷授業・後期印刷授業		
授業範囲	試験範囲	
<ul style="list-style-type: none">・POLITE上の授業資料・指定教科書の内容で、授業資料で指定されている範囲	POLITE上の資料、および指定の教科書にて述べられている内容のうち資料で指定されている範囲とします。 【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただしWebページ (通信教育部POLITEを除く) と生成系AIの参照は不可とする。	
科目の概要		
<p>情報通信技術の発達により、私たちは誰もが情報を発信できるようになりました。その一方で、情報が意図と異なる形で受け取られたり、広く拡散したり、長く残り続けたりするリスクに直面しています。こうした状況を踏まえ、情報の特徴や情報セキュリティ、プライバシー、著作権等の知的財産権 (知的所有権)、AIやビッグデータ、企業活動やデザインの問題などを通して、情報や科学技術が社会にどのような影響を与えているのかを、情報化と社会の関係をさまざまな角度から考えていきます。</p> <p>情報倫理は、パソコンやインターネットを上手に使えるかどうかの問題ではありません。法律違反かどうかだけで判断するのではなく、情報社会の一員として自分の行動が、さまざまな結果を生むことを理解し、情報をどのように発信し、受け取り、利用するかを判断するための基礎となる考え方です。また、正解が1つに決まらない状況で、自分の判断が社会や他者にどのような影響を与えるのかを考え、その判断の理由を説明できるようにしながら選択していくことが倫理です。この科目では、倫理や情報倫理とは何かをさまざまな側面から学び、自分で考え、判断する姿勢、情報モラルを身につけることを目的とします。</p>		
授業における学修の到達目標		
<ol style="list-style-type: none">1. 社会の一員として適切に行動するための倫理を、情報社会の性質とともに理解する。2. 情報に関するルールや考え方を身につける。3. 著作権をはじめとする知的財産権を正しく理解し、適切に利用する。		
講義の方針・計画		
第1回: 大学での学びと情報倫理 第2回: 情報通信社会とインターネット 第3回: ネット時代のコミュニケーション 		

講義の方針・計画

第4回: コンピューターとインターネットを取り巻く脅威

第5回: 情報技術とセキュリティ

↓

第6回: メディアの特徴と変遷

第7回: メディア・リテラシー

第8回: SNSと情報

↓

第9回: プライバシーの保護と個人情報の利用

第10回: 知的財産権の保護と著作物の利用

↓

第11回: 科学技術と私たちの選択

第12回: ビッグデータと人工知能の倫理

↓

第13回: 企業組織の中で起こる判断と責任

第14回: デザインにおける倫理

↓

第15回: デジタル社会と情報倫理

※ 全15回を内容で8ブロックに分けています（縦線で示しています）。

※ 各回に対応する授業資料をPOLITE上に用意しています。教科書の各章とは1対1で対応していません。

各回の授業資料の冒頭に、教科書のどの範囲を扱うのかを記載していますので、確認してください。

準備学習

印刷授業は、教科書や授業資料などをもとに自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。

わからない用語や内容は、参考文献やネット等で調べておくことが準備学習として必要になります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法

印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却します。

成績評価の方法およびその基準

POLITE内の試験による評価100%

教科書

書名: 情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー 改訂3版

著者名: 高橋慈子・原田隆史・佐藤翔・岡部晋典

発行所: 技術評論社

ISBN: 9784297134150

参考書

POLITE上の授業資料に、参考書や参考ウェブサイトを記載しています。

その他

なし

試験期間

シラバス検索画面トップページ (<https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/>) 下部の「2026学年暦」を参照

学習プリント

あり

教職科目

情報5の1（必修）、情報6の4

関連受講科目

なし

担当教員の実務経験

2014年から2025年まで、サイエンスコミュニケーションを実践する企業に勤務し、小中学生向けプログラミング教室のカリキュラム作成と指導、大学などの研究機関の広報活動の一環としてのウェブサイト制作（PHP、TypeScript等を用いた開発）や研究ダイジェスト・プレスリリースの執筆に携わってきました。あわせて、各種研究プロジェクトにおける資料作成などを担当し、さまざまな分野の研究者へのインタビューを通じて、研究成果を分かりやすくまとめる業務を経験してきました。

サイエンスコミュニケーションには、科学技術を内容を一般の方に分かりやすく伝えるという役割があります。その際には、内容の正確さと分かりやすさのバランスを取ることが求められ、情報の扱いに関する倫理的な視点が重要となります。

本講義では、こうした実務経験を踏まえ、指導に取り組みます。